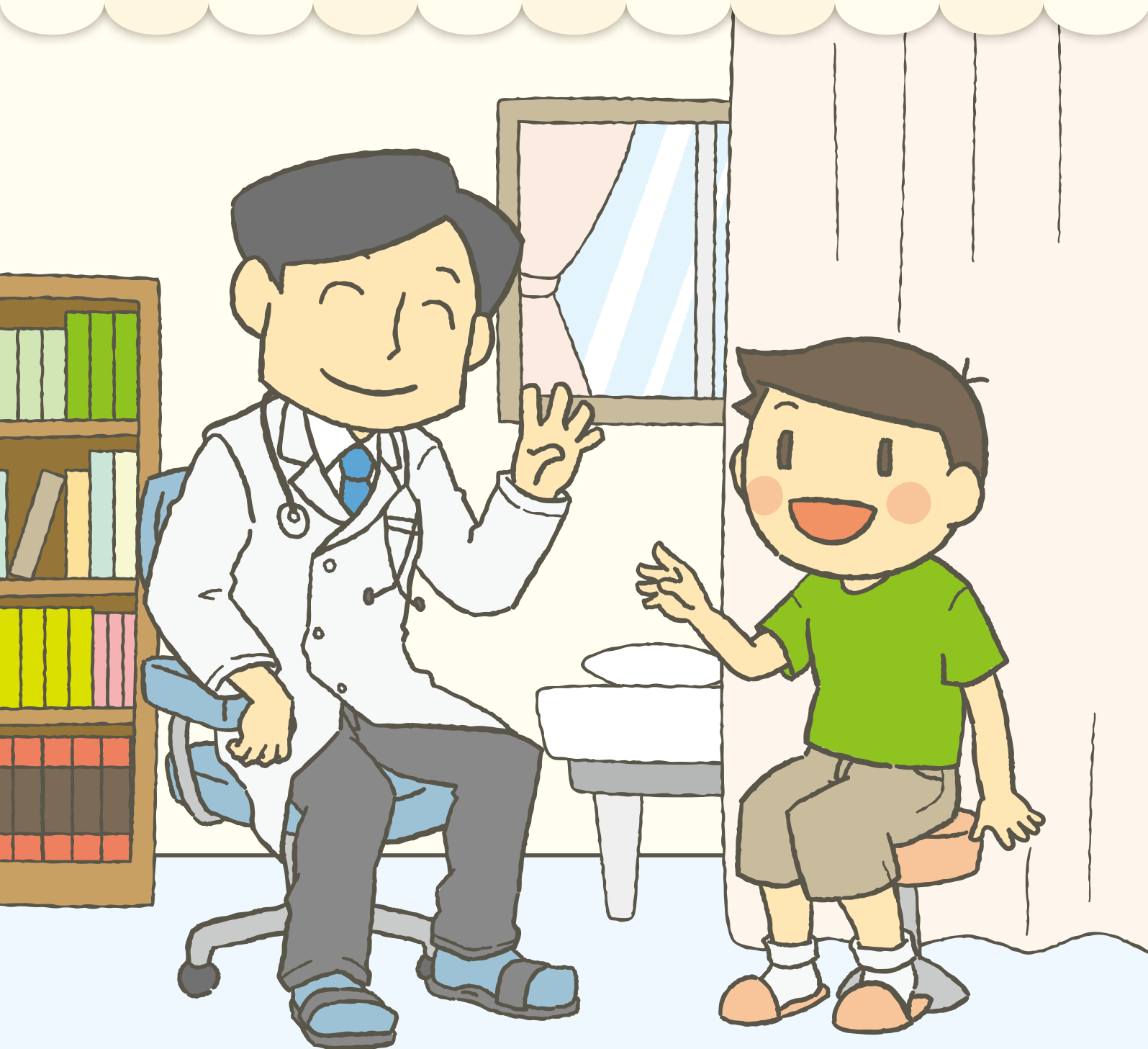


医療機関のみなさまへ

発達障がいのある人が 安心して診療を受けるために



はじめに

発達障がいとは、子育てや対応の悪さが原因で起こるのではなく、脳機能の障がいに起因する行動上の問題です。発達障がいのある人の対応においては、その人の得手・不得手をよく理解し、何に困っているのかをしっかりと把握して、支援の内容を考える必要があります。

このリーフレットは、発達障がいのある人が、医療機関を受診したときに、少しでも安心して受診できるような、手がかりに使っていただくことを目的に作成するものです。

発達障がいとは

広汎性発達障がい(自閉性障がい、アスペルガー症候群など:自閉スペクトラム症(ASD))

広汎性発達障がいは、女児よりも男児に3~4倍多くみられ、「コミュニケーションの苦手さ」「対人関係の苦手さ」「同一性へのこだわり」の3つの特性が見られます。最近の診断基準では、さらに「感覚の特性」が加えられています。

- ① **コミュニケーションの苦手さ** 会話(やり取り)が苦手、自分の気持ちを表現するのが苦手、一方的にしゃべる、人の言葉の文脈の理解が苦手、冗談が通じない...など
- ② **対人関係の苦手さ** 目が合いにくい、名前を呼んでも振り向かない、同年齢の児と遊びたがらず一人で遊ぶのが好き、友達と遊ぶ時も自分のルールで遊びたい...など
- ③ **同一性へのこだわり**
(想像力の障がい) 単純な動作の繰り返し、アニメなどの世界に入り込む、自分の好む行動パターンがあって変えたくない、自分のルールがある、急な予定変更に対応できない...など
- 感覚の特性** 聴覚、痛覚、嗅覚、味覚などが過敏または鈍感、特定の音やにおいが苦手、にぎやかなところが苦手...など

注意欠陥多動性障がい(注意欠如多動症、ADHD)

「不注意」と「多動・衝動性」の2つの側面があります。多動性や衝動性は、高学年になると目立たなくなってくることが多いですが、不注意の面は成人期にも引き続きみられ、生活上の困難に結びつきます。

- ① **不注意** 細部が見落としや課題への不注意、人の話を聞いていない、忘れ物が多い、片付けられない、気が散りやすい...など
- ② **多動・衝動性** じっとしていない、落ち着きがない、少しの刺激で気が散る...など

学習障がい(限局性学習症、LD)

発達に明らかな遅れはないが、「読み」「書き」「計算する」などに必要な基本的な能力に課題がある場合をいいます。また、聞き取りに苦手さをもつ人もいます。

発達障がいのある人はいいところをたくさん持っています。

以下のようなところが見られたら、評価してください。

- ・まじめで優しい。
- ・同じ失敗は繰り返さないように努力する。
- ・正直で努力家。がまんぶよい。
- ・一度納得すると、嫌なことでも我慢しようと頑張る。
- ・弱いものいじめは嫌い。
- ・ずるや意地悪はしたくないと思っている。

